

# 公民館だより なかがわ

第519号

令和8年1月30日  
発行 中川地区公民館  
TEL. Fax : 679-2501

【一般講座】

参加者募集

## 2月「煎茶の美味しい淹れ方教室」

日 時：2月24日（火）10:00～12:00頃  
場 所：中川地区公民館 図書室 調理室  
講 師：お茶と菓で岩淵 岩淵正太郎さん（山形市長谷堂）  
内 容：購入した煎茶の茶葉を使って、美味しい淹れ方などを教えていただきます。お菓子付きです!!  
材料費：900円（煎茶の茶葉1袋の購入代になります）  
※つり銭のないようにお願いします  
持ち物：自宅で使っている急須  
対象：中川地区民  
定員：先着10名程度（定員になり次第、受付終了）  
締切日：2月12日（木）



美味しいお茶とお菓子の時間を  
一緒に楽しめませんか？

お申込み・お問合せ：中川地区公民館（☎679-2501）

## 2月・3月 行事予定



2/3(火) 予算審議会、三者会、会長会  
公民館運営協議会  
2/7(土) 笑いと健康のつどい  
2/10(火) 粋いき俱楽部（職員不在時間あり）  
2/13(金) パソコンクラブ  
2/17(火) そば打ち愛好会  
2/20(金) 出前スポーツ教室「シャフルボード」  
子ども会育成会反省会  
2/24(火) 一般講座「煎茶の美味しい淹れ方教室」  
2/27(金) 市報、館報、福祉村だより

3/3(火) 施設訪問（職員不在時間あり）  
会長会、公民館運営協議会  
3/4(水) 中川食改総会  
3/10(火) 中川地区監査  
3/13(金) 会長会、公民館運営協議会  
3/17(火) そば打ち愛好会  
3/19(木) 令和8年度新会長顔合会  
3/24(火) 一般講座「フラワーアレンジメント教室」  
※3月募集  
3/27(金) パソコンクラブ

詩吟教室（火曜日） 2/3、17、24  
ラージピンポン愛好会  
(木曜日) 2/5、12、19、26

スポーツ麻雀愛好会  
(木曜日) 2/5、12、19、26

# 中川地区新年祝賀会 開催！

1月7日（水）、令和8年「中川地区新年祝賀会」が、上山市長はじめ多くの来賓の方々をお迎えして開催されました。泉川地区の高橋 義明地区会長の司会進行により、市民憲章の唱和、中川地区会長会佐藤 友治会長の主催者挨拶が行われました。また、中川地区表彰では、中川地区民生児童委員として、2期6年にわたり地区の住民福祉のためご尽力いただきました、甲石地区の松浦 敏雄さん、高野地区の瀧谷 正秋さんに感謝状が贈られました。心より感謝申し上げます。続いて、山本市長、遠藤県議会議員より来賓を代表してご挨拶を頂戴いたしました。その後、高野地区の山口 博之さんにお謡を、薄沢地区の斎藤 陸州さん（斎藤 秀雄さん）に祝吟を披露していただき、新春にふさわしく厳かな雰囲気となりました。その後は皆様和やかに歓談され、最後に、中川地区のますますの発展を祈念し、斎藤 秀明館長の音頭により万歳三唱にてお開きとなりました。これからも中川地区がますます活性化していくよう知恵を絞って、今年もできることを精一杯やっていきたいと思っております。



## 高野地区内改良工事予定 T字路交差点の信号機存続決定!!

公民館だより第516号でお知らせしました、高野地区内の蔵王エコーラインと蔵王公園線T字路の交差点改良工事に伴う信号機撤去計画について、地区会長会より遠藤県議に対して、交差点事故増加の危険性から、交差点改良工事后も信号機が存続されるよう要望書を提出しましたが、遠藤県議から県警本部に強く働き掛けていただいた結果、交差点改良後も新たな信号機が設置されることとなりました。遠藤県議をはじめ、存続活動にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。今後とも地区内の安全安心の確保に向けて、関係者が一丸となって取り組んでまいります。

# 中川小学校 「だんご木飾り作り交流会」

1月9日（金）、中川小学校1、2年生15名と中川糀いき俱楽部会員による「だんご木飾り作り交流会」が中川小学校の家庭科室で開催されました。「だんご木飾り」は、小正月（1月15日）に秋の豊作などを願って行われる伝統行事です。楽しみにしていた1、2年生と一緒に、だんごの粉に水を入れて混ぜ合わせ、食紅で色をつけてこねていきました。児童の皆さん、一つ一つの作業を楽しみながら一生懸命取り組んでいました。丸めただんごを茹でて冷ました後、ふれあいホールに移動して、地区の方からいただいた立派なミズキ（水木）に、だんご、麩菓子の鯛飾りや繭玉、1、2年生が作った折り紙飾りを飾っていき、見事なだんご木が完成しました！！楽しかった～との感想をたくさんいただき、糀いき俱楽部の会員さん達もとても喜んでいました。がんばって作ってくれた児童の皆さん、参加していただいた糀いき俱楽部の皆さん、本当にありがとうございました。



## 出前スポーツ教室 「ストレッチヨーガ」

1月13日（火）、出前スポーツ教室2回目の「ストレッチヨーガ」が、横倉 康子先生指導のもと開催されました。ヨガのポーズで呼吸を整えながら、足の裏、肩や背中、太ももなどをしっかりと伸ばし、寒さやストレスで凝り固まった筋肉を十分にほぐしていきました。終わるころには、冷たかった足や体がぽかぽかになりました♪

次回は、2月20日（金）の《シャフルボード》です。スティックで円盤を押し、得点枠にどのくらい残るかで点数を競い合います。誰にでもできるスポーツです。まだ定員に達しておりませんので、興味のある方、体を動かしたい方は、ぜひお申込み下さい！



## わんぱく広場 「冬に遊ぶ会」

1月23日（金）、わんぱく広場「冬に遊ぶ会」が、農業者等トレーニングセンターを使用し開催されました。当日のお風呂の熊の目撃情報を受け安全が最優先と考え、急遽屋内での開催でしたが楽しく遊ぶことにしました。初めに床一面を使用し2種類の宝探しゲームやBOXフリスビーを行い『お宝はどこ？どれ？』『当たりは何？』『入れ～』『やったー入った！』と、終始歓声があがり参加者全員で笑顔いっぱい楽しく過ごすことが出来たと思います。最後は館長とじゃんけん大会。最後まで勝ち残った人はご褒美を🍓ゲット！！し、閉幕しました。来年は屋外でまた開催したいですね～。寒い中お手伝いいただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



# おらほの中川 ＜地域の話題シリーズ 第二百八弾＞

## 「昭和考、問わず語り（その60）」

日中戦争が長期化するなかで、関東軍が暴走しソ連との間で「ノモンハン事件」を起こします。その無謀な戦闘により多くの犠牲者を出します。本稿では、同事件に続き、近づく太平洋戦争への前触れについて記述します。

### 〈昭和十四年、ノモンハン事件までの主な出来事〉

- ・一月十五日 横綱・双葉山が安芸ノ海に破れ、連勝を六十九でストップ。
- ・一月二十五日 防護団と消防組を統合する警防団令公布（四月一日施行）
- ・二月十六日 商工省、鉄製品の回収開始。ポスト、ベンチ、広告塔、マンホールの蓋、灰皿など十五品目を不急品として指定。
- ・三月十五日 内務省、各地の招魂社を護国神社と改称。
- ・四月十一日 米穀商の許可制、政府による配給統制令等に関する米穀配給統制法が公布される。
- ・四月二十六日 青年学校令改正公布施行。高等小学校・中学校・実業学校等に在学していない満十二歳以上十九歳以下の男子に義務化。

### 〈近代戦に敗れたノモンハン事件〉

昭和十四年五月十一日、満州国とモンゴル人民共和国の国境に位置するノモンハン付近で、「越境」して軍馬に草を食べさせにきたモンゴル軍騎兵を満州国軍が攻撃した。

これが、満州軍とソ連・モンゴル軍による大規模な国境紛争「ノモンハン事件」へと発展した。戦闘は二次に及び、日本陸軍は建軍以来の大敗北をこらめた。事件は、満州とモンゴルとの不明確な国境線を要因とするものだった。それが大規模な軍事衝突となつた原因の一つが、事件に先立つ二週間前の四月二十五日に示達された「満ソ国境紛争処理要綱」だった。

「要綱」は、関東軍参謀・辻政信が起案したもので、その方針は「満ソ」国境二於ケル「ソ」軍（外蒙軍）

ヲ含ム）ノ不法行為ニ対シテハ周到ナル準備ノ下ニ徹底的ニ之ヲ膺懲シ「ソ」軍ヲ摺伏セシメ其ノ野望ヲ初動ニ於イテ封殺破壊ス」というものだった。この新しい方針は、陸軍中央の「侵されても侵さない」の考え方とは異なり、国境付近の不明確な地域においては「防衛司令官一於テ自主的ニ国境線ヲ認定シ」、さらに「一時的ニ『ソ』領ニ進入」することを認めるという危険なものだった。

満ソ国境線では、国境紛争が十二年に百十三回、三年には百六十六回起つていて。その一つが十三年七月の張鼓峰事件であったが、外交交渉で終結していくた。

五月十一日報告を受けた第二十三師団師団長・小松原道太郎中将は、関東軍司令部を通じて参謀総長・閑院宮戴仁親王に報告。参謀本部次長名による返電は「関東軍の適切な処置に期待する」というものだった。同師団長は、約二千人の搜索隊を編成し「十七日から行動を起つた。戦闘は一十八日から本格的となり、モンゴル軍に加えソ連軍の機甲部隊が戦闘に参画した。退路遮断に向かつた日本の搜索隊は、ソ連軍の重砲と戦車により包囲攻撃され、指揮に当たつた東八百蔵中佐らは一十九日夕刻突撃して戦死した。この間部隊主力も、圧倒的なソ連軍の砲撃を受け動けなかつた。

一方、航空戦では関東軍が、ソ連機五十数機を撃墜して圧倒した。しかし五月三十一日小松原師団長は、支隊に戦場離脱を命じて第一次の戦闘は終わつた。

この撤退のあと、ソ連・モンゴル軍は（国境としていた）ハルハ河両岸の兵力を増強し始めた。六月二十日、関東軍は磯谷廉介参謀長の反対論を辻参謀と服部卓四郎参謀が押し切り、第二十三師団に第七師団の一部・戦車団・砲兵を配して出動命令を下した。約一万五千人の戦略単位の大動員で、一撃破壊しようというものであった。

軍中央は、関東軍の方針を追認、六月二十七日、関東軍は中央の了解なしに独断でソ連領内のタムスクを爆撃した。七月二日には、地上兵力にも攻撃命令が出され、第二次の戦闘が開始された。しかし日本軍の損害は大きく、とりわけ八月二十日からのソ連側から



（次回は、日米開戦に進む情勢について記述する予定です。）

（近衛内閣が南進を決定）  
中国との戦争が始まって三年たつた十五年七月、日中戦争に業を煮やした第二次近衛内閣がそこから脱出すべく新たな方策を決定します。それは「南進」、南方への進出です。（加藤陽子著「とめられなかつた戦争」文春文庫）

（しかし、「これが米の反発を招き、日米開戦へとつながつてきます。）

の大攻勢で関東軍は壊滅的打撃を受けた。第六軍軍医部の調査では、日本軍の戦死七千六百九十六人、戦傷八千六百四十七人、生死不明千二十一人を数えた。

敗北の原因は、ソ連軍との圧倒的な戦力の差にあつたが、それ以前に関東軍の情勢判断の甘さがあった。

同事件は、九月十五日停戦協定が結ばれ終結したが、事件後多くの将校が戦線離脱などの責任を追及され、自決させられたり、また予備役に編入させられたりした。さらに、大敗の真相は国民の耳目から隠された。

（甲石に住む鈴木某さんは、この事件に従軍した方で、よく我が父と戦争の苦労話を語り合つていた。）

甲石地区 高橋 正之